



被災後の役場庁舎 (2011年4月10日)

平成 23 年

- ◆ 第 1・2 回定例会
- ◆ 第 2・3・4 回臨時会
- ◆ 特集 3. 11

紙 面 内 容

- 第 1 回定例町議会 審議された議案・・・②～③
- 一般質問の内容・・・・・・・・・・・・④～⑥
- 特別委員会報告・・・・・・・・・・・・⑦
- 第 2 回定例町議会 審議された議案・・・⑧
- 一般質問の内容・・・・・・・・・・・・⑨～⑪
- 臨時議会・・・・・・・・・・・・⑫
- 特集 3. 11・・・・・・・・・・・・⑬～⑯

第1回定例町議会

一般質問に4議員が登壇

※ 3月9日 震災前の一般質問です

平成23年第1回定例議会は、3月4日から16日までの13日間の会期としました。今期定例会には、大槌町地域活性化基金条例の制定についてや平成23年度の各会計当初予算など議案28件が提案されました。

また、一般質問には4議員が登壇し、町当局の姿勢や施策をたどしました。

本会議初日の4日は、阿部六平議長から議会議閉

中の諸般の報告が行われ、続いて赤崎幾哉議員

から釜石大槌地区行政事務組合議会、野崎重太議員から後期高齢者医療広域連合議会、岩崎松生議員から岩手沿岸南部環境組合議会の報告がありました。

次に、加藤宏暉町長から平成23年度の施政方針

演述と藤井達也教育委員長から教育行政方針演述

が行われました。続いて、議案28件が、括して当局から提案され、第1日目の会議は終了しました。

第2日目の9日は、赤崎幾哉議員、阿部佑吉議員、伊藤安男議員、里館

裕子議員の4人が一般質問を行いました。

第3日目の10日は、大槌町地域活性化基金条例の制定や大槌町斎場建設基金条例の制定など12件の議案と一般計補正予算が審議され、すべて原案のとおり可決されました。

第4日目の11日は、特別会計の補正予算を審議

しすべて原案のとおり可決され、平成23年度の一般会計など9会計の当初

予算については審議のため、予算特別委員会を設置して午後から休会となりました。その後、午後2時46分に東日本大震災が発生し、未曾有の大災害となりました。

震災中の15日、大槌町中央公民館で会議を開き、平成23年度当初予算が原案のとおり可決されました。

震災中の15日、大槌町中央公民館で会議を開き、平成23年度当初予算が原案のとおり可決されました。

震災中の15日、大槌町中央公民館で会議を開き、平成23年度当初予算が原案のとおり可決されました。

大槌町地域活性化基金条例の制定 過疎地域からの自立促進を図るため、地域の自立促進に関し必要な事項にかかる幅広い事業を展開し、住み心地のよい地域づくりを実現するための基金を設置するため条例を制定するも

のです。

のです。

大槌町定住促進住宅基金条例の制定 大槌町定住促進住宅の維持管理、大規模修繕及び用途廃止に要する経費の財源に充てるため基金を設置する条例を制定するものです。

のです。

のです。

大槌町防災会議条例の一部を改正する条例 災害発生時に応急対策や復旧に関して関係機関と連絡調整を図ることなどを所掌事務に追加するものです。

のです。

のです。

大槌町簡易水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例 折合地区と中山・中一原地区を金沢簡易水道事業とするため、条例を一部改正するものです。

大槌町水防協議会条例を廃止する条例 大槌町防災会議で水防計画を審議できることから、本条例を廃止するものです。

辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定 徳並辺地に係る総合整備計画についてスクルバスの更新や消防ポンプ車の更新を平成23年度から



議会の動き

〈12月〉

3日 第4回定例議会

8日

〈2月〉

18日 第1回臨時議会

〈3月〉

4日 第1回定例議会

16日

〈4月〉

15日 臨時政務調査会

盛岡市

19日 震災に係る第1回議会説明会

25日 議会運営委員会

29日 吉里吉里地区合同葬儀

〈5月〉

5日 自衛隊ヘリコプ

タ による被害状況視察

10日 住田町議会正副議長来町

13日 教育民生常任委員会

16日 産業建設常任委員

平成27年度の5年間で整備することについて議会の議決を求めるものです。
(原案可決)

◎辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更
金沢辺地に係る総合整備計画について飲用水供給施設の整備と老朽管の更新、消防用ホース乾燥塔を整備することについて議会の議決を求めるものです。
(原案可決)

◎町道の路線認定、廃止及び変更 浪板交流促進セクター線、越郷の丘線、一枚堂1号線、の渡線、恵水構2号線、白銀1号線、桃畑線を認定、吉里吉里中学校線を廃止、江岸寺山門線を変更するものです。
(原案可決)

◎岩手県市町村総合事務組合規約の一部変更の協議に関し議決をもとめること 平成23年4月1日から盛岡地区広域行政事務組合が盛岡地区広域消防組合に名称変更することに伴い岩手県市町村総合事務組合規約の整備を行うものです。
(原案可決)

◎平成22年度大槌町一般会計補正予算(第7号)を定めること 歳入は町税及び普通交付税の増額、歳出は、地域活性化基金積立金、斎場建設基金積立金、定住促進住宅基金積立金等により、歳入歳出予算に3億8652万3千円を追加し予算総額を63億6187万円とするものです。そのほか、地方債変更12件の補正です。
(原案可決)

◎平成22年度大槌町一般会計補正予算(第7号)を定めること 歳入は町税及び普通交付税の増額、歳出は、地域活性化基金積立金、斎場建設基金積立金、定住促進住宅基金積立金等により、歳入歳出予算に3億8652万3千円を追加し予算総額を63億6187万円とするものです。そのほか、地方債変更12件の補正です。
(原案可決)

◎平成22年度大槌町老人保健特別会計補正予算(第2号)を定めること 診療報酬の清算により歳入歳出に9万7千円を追加し、予算総額を130万9千円とするものです。
(原案可決)

◎平成22年度大槌町下水道事業特別会計補正予算(第4号)を定めること 日沢地区排水路整備実施計画業務委託料の減額等により歳入歳出予算から689千円を減額し、予算総額を4億9989万2千円とするものです。
(原案可決)

◎平成22年度大槌町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)を定めること 医療費給付費等の増額により、歳入歳出予算に2792万8千円を追加し、予算総額を20億384万8千円とするものです。

定例会臨時会議員出欠表

議席番号	議員氏名	第1回定例会 (3/4～3/16)		第1回臨時会 (2/18)	
		出席	欠席	出席	欠席
		1	東梅康悦	5	0
2	小松則明	5	0	1	0
3	里館裕子	5	0	1	0
5	阿部敏雄	4	1	1	0
6	欠員				
7	及川 伸	5	0	1	0
8	阿部義正	5	0	1	0
9	阿部勝浩	5	0	1	0
10	芳賀陽一	5	0	1	0
11	赤崎幾哉	5	0	1	0
12	後藤高明	5	0	1	0
13	伊藤安男	5	0	1	0
14	岩崎松生	5	0	1	0
15	岡本大作	5	0	1	0
16	伊藤之夫	4	1	1	0
17	阿部佑吉	5	0	1	0
18	野崎重太	5	0	1	0
19	阿部六平	5	0	1	0

◎平成22年度大槌町下水道事業特別会計補正予算(第4号)を定めること 日沢地区排水路整備実施計画業務委託料の減額等により歳入歳出予算から689千円を減額し、予算総額を1億3913万7千円とするものです。
(原案可決)

◎平成22年度大槌町介護サビス給付費の増額により歳入歳出に7580万円を追加し、予算総額を13億7441万4千円とするものです。
(原案可決)

◎平成22年度大槌町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)を定めること 後期高齢者医療広域連合納付金の確定により、歳入歳出予算に234万1千円を追加し、予算総額を1億3913万7千円とするものです。
(原案可決)

◎平成22年度大槌町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)を定めること 診療報酬の清算により歳入歳出に9万7千円を追加し、予算総額を130万9千円とするものです。
(原案可決)

◎平成22年度大槌町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)を定めること 後期高齢者医療広域連合納付金の確定により、歳入歳出予算に234万1千円を追加し、予算総額を1億3913万7千円とするものです。
(原案可決)

◎平成22年度大槌町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)を定めること 診療報酬の清算により歳入歳出に9万7千円を追加し、予算総額を130万9千円とするものです。
(原案可決)

19日	震災に係る第2回議会説明会
20日	山田町正副議長来町
24日	議会運営委員会
25日	東部町村議会議長会定期総会(岩泉町)
27日	第3回臨時会
30日	第1回東日本大震災に係る復旧・復興対策特別委員会
31日	議会運営委員会
6日	議会運営委員会
7日	議長会臨時総会
10日	第2回定例会議会
23日	岩手町議会政務調査会来町
29日	西和賀町議会来町総務常任委員会

今後、公共施設の建設予定は

- ①大槌中学校 ②火葬場
- ③消防庁舎 ④役場庁舎



赤崎幾哉議員

「行政改革について」

【問】町の発展計画や過疎自立促進計画を知る方法は。

【答】木村企画財政課長

ダイジェスト版として広報に掲載する

【問】国保の基金残高の還元は。

【答】(佐々木町民課長)

2億円余り保有しており適正な運用を図る。

【問】経費削減のため組織の見直しは。

【答】(澤館総務課長)

平成20年度から19課制から12課制 見直しを行った。

【問】釜石との合併、その後の動向は。

【答】木村企画財政課長

定住自立圏構想について協議中である。

【問】職場の確保と企業誘致は。

【答】(佐々木産業振興

課長)

小野食品(株)は25人体制で稼働を予定している。

【問】地元で買物を。

【答】(佐々木産業振興課長)

関係機関と協議する。

【問】消防防災無線聞きにくい。

【答】(澤館総務課長)

3回に分けて放送している。さらに検討を進める。

【問】民間委託件数は。

【答】(澤館総務課長)

公的施設13 文教12 産業振興1 町内会など団体11 特定非営利活動法人1 有限会社1施設となっている。

「今後の公共施設建設予定」について

【問】大槌中学校の早急な建設を。

【答】木村企画財政課長

平成23年度中の着工を

目指す。

【問】火葬場について。

【答】木村企画財政課長

建設基金を設置、平成26年度目指す。

【問】消防庁舎について。

【答】木村企画財政課長

新年度中の用地確保を目指して推進する。

【問】役場庁舎について。

【答】木村企画財政課長

災害時の対策本部が設置可能か心配である。

【問】日 回町民歌の放送は。

【答】(澤館総務課長)

施設の目的に合致しない。

【問】小学校統合して空き校舎の庁舎活用は。

【答】(伊藤教育長)

児童生徒数の推計が計りがたいこと 予算上国の理解を得難いことから統合は考えていない。

「その他の」意見など

【問】地域見守事業は。

【答】(関福祉課長)

緊急通報装置貸与事業、「いわて」おげんき」みまもりシステム等実施している。

【問】県立大槌病院の将来構想について。

【答】(関福祉課長)

地域住民が 体となつて医療を守る取り組みを推進する。

【問】下水の清掃は役場で。

【答】(佐々木町民課長)

計画的、集中的に作業実施するなど 検討をする。

【問】農林業の振興策について。

【答】(佐々木産業振興課長)

地産地消をすすめ 木材の高付加価値を図る。

【問】御社地駐車場の有料化は。

【答】(佐々木産業振興課長)

部何らかの検討をする。

【問】空き家の活用とB級グルメ開発は。

【答】(佐々木産業振興課長)

地域おこしのため今後いろいろな施策を検討する。



平成22年 城山からの眺望

「町長の施政方針」について

「教育委員長の教育行政方針」について



阿部 佑吉 議員

※答弁記録が流失のため、質問通告の概要報告とします。

1 「町長の施政方針」について

基本姿勢「誠実・信頼
透明性」に関して

【問】合併問題での議論で町長自身の意図が何処にあったのか全く不透明なことである。何処に向かおうとしていたのか。

【問】議員定数問題では、結果は法定数上限から9名、現定数から5名削減の13名となった。乱暴な決め方だという方ともつと減らせの声もある。町長としての評価は。

【問】平成20年度県補助を活用した福祉灯油問題があり、県下35自治体で唯 実施しなかった町となりました。町長の掲げる「弱者のための町政」とはなにか。

商工観光関係に関して

①木造住宅建設促進助成金事業について

【問】事業の見直しの具体的な内容とそれによる効果

果をどのよう期待しておられるのか。

「地域のぬくもりを広げる健康福祉」に関して

①予防接種事業について
【問】子宮頸がん予防ワクチン、インフルエンザ菌B型 ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン接種については。

②乳幼児医療費助成事業について

【問】事業実施には関係条例の改正、関係予算の計上が必要かと思うが、その時期はいつなのか。

児童福祉に関して

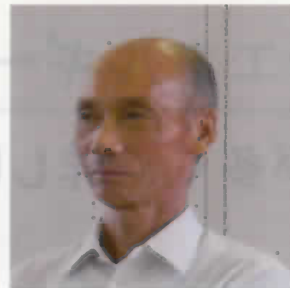
【問】子ども手当問題について。

2 「教育委員長の教育行政方針」について

「学校教育環境の整備充実」に関して

【問】赤浜小学校、安渡小学校と大槌北小学校の再編について。

【問】大槌中学校の改築について。



伊藤 安男 議員

【問】大槌スタイルデザイン会議の設立について。

現在の大槌に立って、大槌の将来が見えますか？それが問いです。

その答えを出すことが大きな課題です。

もし、TTPの協定がなされた場合、大槌町の次産業は大きな打撃を受けると思います。そうなった場合に、大槌の産業は現在の生産スタイルでは対応できない時がくると思います。

町の 次産業再生をどのように設計するかと考えた場合に、観光農園等のように 次産業に観光を結合させたスタイルもあります。町勢発展計画は住民の生活環境づくりが主体でありますが、町の経済設計は行政の発想に限界があります。

開発無きところに発展がない訳ですが、誰かがこの開発に挑戦しなければ産業の再生はあり得ないと思います。大槌には「やる気」を

持っている人もアイデアを持っている人とアイデアを持っていても開発を諦めている人も多くあります。こうした方々を集めて意見交流させる場を作れば大きな可能性が生まれると思います。

【問】大槌スタイルデザイン会議の設立について。

【答】（佐々木産業振興課長）

「何もない大槌ではなく「これ」がある大槌を開発設計する。「これ」を小さく育て大きく育てていく支援体制づくりをして、全国に発信すれば通年的な集客交流が図られると考えます。そのために、大槌スタイル、デザイン会議の場を設けることが必要と考えます。こつぶでもキラリと光る大槌を作るには磨けば光る素材の発見が必要です。設立に当たっては、広報大槌で呼びかけて、デザインを集めて会を作らせ、後は行政が後押しをしていく、こうした体制づくりを提案しますが当局のお考えをお聞きます。

化については現在、関係機関とも協議し農産と水産その他特産品づくりに向けた関係者による定期的な情報交換の場の設置や、各団体、企業が保有する商店の販路開拓や調査研究の方法等を検討しております。また釜石沿岸広域振興局では、地域ブランド構築ワ、ク

ショップを開催しておりますが、町の担当者も参加し、意見交換を行いながら、今後の展開を研究しているところであります。議員ご提案の大槌スタイル、デザイン化構築も含めた体制作りについては、今後さらに検討を進めて参りたいと考えます。

【問】新事業創出支援事業の成果検証と今後の取り組みについて

1 計画期間における実施例と成果について

2 資金支援以外にどんな支援方法をしたのか

3 今後の事業計画について

【答】(佐々木産業振興課長)

1 新事業創出支援事業は平成20年度からスタートし、平成20年度は「おにぎり成形押型具」「オリジナルインドカレ」の商品化と市場開拓の2件が採択されました。

平成21年度は「水産加工品のシト・トレ」開発と試作「地場産品を活用したリキュールの製造・販売」「ウーの既存製品高付加価値と資源の有効活用」の3件、平成22年度は「地元生産者との連携による地元食材を活用した商品開発」「根昆布の有効活用余新商品の開発」「安息用インソールの研究、試作」の3件が採択され、現在事業を展開しております。

成果としては、例えば「おにぎり成形押型具」の場合、災害時の緊急給食

支援のほか、度に多量のおむすびを製造するメカ、企業からの照会もあり、大槌町においても今年度の津波避難訓練において活用する予定でございます。

2 事業実施にあたっては釜石大槌産業育成センターに助言、指導を要請し、技術的な支援も行っております。また、事業の内容等については企業交流会等では、その研究成果を発表するとともに、町のホームページにも掲載し、広く周知を図っているところであります。

3 今後の事業計画につきましては、特に第6次産業として農水商工連携が図られるよう、各企業や団体、関係機関に働きかけて参りたいと考えております。

「新エネルギー」の地産地消は

課題が多く、詳しい情報収集が必要と考えている。



議員 裕子 館里

【問】国内では初めて

使用済み紙おむつから固形燃料を生成できる機械が開発されました。このことはごみ減量化に直結するだけでなく、新エネルギーの地産地消にも繋がるのではとの期待を込めて、当局のお考えを伺います。

【答】(佐々町民課長)

現在、当町では使用済み紙おむつは燃えるごみとして焼却しております。これを活用し、レット状の固形燃料を製造して燃料に使用するという伯耆町の取り組みは、先進的取り組みとして非常に意義ある事だと認識しております。ただ、紙おむつのリサイクルは、衛生的な分別収集体制の確立や新たなリサイクル施設の整備が必要となるなど課題が多く、採算性や性能等の面で詳しい情報収集が必要ではないかと考えております。限られた資源の有効活用とごみ減量化を図るにはリサイクルの推進は不可欠であり、

4月からはプラスチック製容器包装の分別収集を始めますが、引き続きリサイクルの推進を強化してまいります。

他に、昨年10月、会派(同志会)で行ったアンケート調査の中からも質問しました。

【問】高齢化による行政班长等の不足対策は

【答】(澤館総務課長)

町民の理解を得ながら、現状体制を維持したいと考えている。高齢者世帯に配慮いただきながら行政情報の伝達についても検討する必要があると考えている。

【問】ごみ問題(人事業所)の対応は

【答】(佐々町民課長)

資源分別を行い、リサイクル業者に直接引き渡す方法や同業者同士で共同処理に取り組む等があげられる。引き続き啓発や情報提供に取り組み、理解を深めて頂き適正処

理の推進に努めて参りました。

○職員採用の透明化、接遇改善 (答 澤館総務課長)

○職員提案制度「小グループ活動」の状況公開 (答 澤館総務課長)

○身近なまちづくり職員地区担当者制度(仮称)の現状 (答 澤館総務課長)

○高齢基礎年金の満額と生活保護世帯の給付額 (答 関福祉課長)

○老人ホームの増設 (答 関福祉課長)

○安渡・赤浜小学校統廃合 (答 加藤町長)

以下、要望3点は本議会前に回答いただきました。

1 災害時における安渡地域の避難施設と避難道路の早期整備 (評価C)

2 新港町から安渡地区へ通じる生活道路に掛る小橋(7ヶ所)の調査整備 (評価A)

3 安渡寺通り出入口にカブミラーの設置 (評価C)

東日本大震災に係る復旧・復興対策特別委員会

【報告】

5月27日に開催された臨時議会において3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震に伴う災害の復旧及び復興対策を行うことを目的として、「東日本大震災に係る復旧・復興対策特別委員会」の設置を求める発議案が及川伸議員より提案があり、採択の結果賛成多数によって可決され、特別委員会(定数7名)が設置された。その後、直ちに第1回特別委員会が開催され、正副委員長の互選を行い、委員長に及川伸議員、副委員長に東梅康悦議員が選出される。

(委員 野崎重太議員、後藤高明議員、赤崎幾哉議員、岩崎松生議員、里館裕子議員)

平成23年5月30日には、第2回特別委員会が開催され、今後の活動方針並びに活動計画について協議を行う。目標として①

早急な現状把握を行う事。(住民との対話、各課との会合) ②緊急課題と短・中・長期的課題に分けて対応を行う事。③スピード感を持って課題に取り組み、町民が希望を持つような政策の提案を行う事を確認する。

平成23年6月3日、第3回特別委員会を開催。地域整備課と(1)仮設住宅への入所する際の条件、規則(2)仮設住宅建設と入居の進捗(3)ガレキ撤去の進捗状況及び今後の計画の3件について協議を行う。

平成23年6月6日から平成23年6月9日の4日間に渡り町民との意見交換会を行う。日程「平成23年6月6日 吉里吉里、浪板地区(4カ所)。

平成23年6月7日 安渡、赤浜地区(5カ所)。平成23年6月8日 金沢地区

(6カ所)。平成23年6月9日 小鎚地区(7カ所)。

平成23年6月13日、第4回特別委員会を開催。

「午前9時から午後4時」町民課(町長選挙、町議会選挙の見通しについて)、福祉課(県立病院の建設見通し、生活支援について、義援金配分の進捗)、産業振興課(多重口ン対策、雇用の創出、商工業振興策、仮設商店街の設置、水産被害と水産振興策について)、総務課(防災計画について、今回の災害を踏まえて避難路、避難所のあり方について、テレビ難視聴対策)とそれぞれ現状と課題について協議を行う。

平成23年6月15日、6月定例会終了後、東梅副町長に対し、災害復旧、及び避難所支援、復興対策に関する要望(40項目)について、緊急要望書として提出する。

【報告 及川】



平成23年6月9日 小鎚神社

第2回定例町議会

一般質問に3議員が登壇

平成23年第2回定例議会は、6月10日から15日までの6日間の会期で開催されました。今期定例会には、大槌町税条例の部を改正する条例や平成23年度の一般会計補正予算など議案7件、報告2件、発議案1件が提案されました。また、一般質問には3議員が登壇し、町当局の姿勢や施策をたどりました。

◆報告◆

◎繰越明許費繰越計算書

平成22年度 一般会計予算の町裏幹線道路改良事業、木造住宅耐震改修補助金、仮設住宅用地造成事業、消防団員用防火衣整備事業、給食用白衣購入事業、道路啓開事業等、合計2億8660万7千円を平成23年度に繰り越したことを報告したものです。

(報告)

◎事故繰越計算書

平成22年度 一般会計予算の地域情報通信基盤整備推進事業、清掃事業所施設改修事業、バンカ 車購入事業、歓迎看板改修事業、

橋梁長寿命化修繕計画策定業務委託、町道田屋線道路改良工事、小槌線道路改良事業、新港町漁民住宅屋根改修事業、望洋が丘町営住宅排水設備工事、中山分館屋根改修工事等、合計5億7997万4千円を平成23年度に繰り越したことを報告したものです。

(報告)

◆議案◆

◎大槌町固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて

固定資産評価審査委員会に藤本敏明を選任することに同意を求めたも

のです。

全員賛成・同意

◎大槌町税条例の一部を改正する条例

平成23年度地方税法の部を改正する法律、地方税法施行令の部を改正する政令及び地方税法施行規則の部を改正する省令の施行に伴い改正するものです。

全員賛成・原案可決

◎工事請負契約の締結

沢山地区にがれき集積場を整備する工事を5億7750万円で松村建設㈱と契約するものです。

全員賛成・原案可決

【次の3議案は平成23年9月26日をもって 関市に編入する東磐井郡藤沢町を平成23年9月25日をもって脱退させることを主たる目的とする協議です】

◎岩手県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少の協議に

関し議決を求めること

全員賛成・原案可決

◎岩手県自治会館管理組合を組織する地方公共団体の数の減少の協議に

関し議決を求めること

について

全員賛成・原案可決

◎岩手県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少及び

岩手県後期高齢者医療広域連合規約の部変更の協議に

関し議決を求めること

について

全員賛成・原案可決

◎平成22年度大槌町一般会計補正予算(第2号)

を定めること。歳入は特別交付税および国庫補助金の増額と災害弔慰金、歳出は、情報通信システムの構築、災害弔慰金、がれき処理委託料等により、歳入歳出予算に60億1815万7千円を追加し予算総額を173億2914万4千円とするものです。そのほか、債務負担行為2件、地方債追加4件、変更1件の補正です。

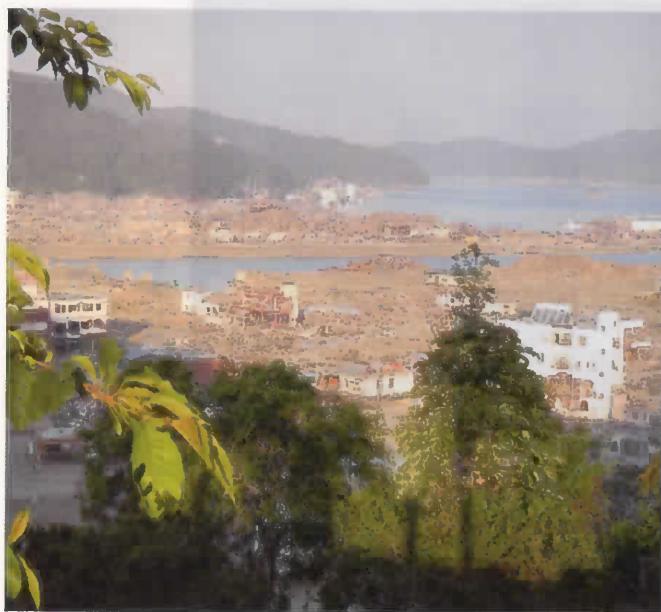
全員賛成・原案可決

◆発議案◆

◎大槌町議会委員会条例の部を改正する条例

大槌町議会の議員定数が13人となることから、常任委員会の名称、定数およびその所管を改正するものです。

全員賛成・原案可決





赤崎幾哉議員

大地震時における「初動体制の検証」について

危機管理意識の欠如を深く反省

復興計画について

【問】 縦貫道とJR山田線の体化について。

【答】 (平野総務課長) 基盤整備を進める中で可能性を探る。

【問】 堤防の早期着工について。

【答】 (阿部産業振興課長) 防潮堤は応急復旧として3 3 4 2メートル高くする。河川堤防については大型土のうをつみ高潮による冠水を防ぐ。

【問】 今後の教育環境整備について。

【答】 (鎌田学務課長) 吉里吉里小・中学校を拠点に山田町陸中海岸青少年の家と大槌高校の校舎を借用して分散授業であるが仮設校舎を早急に設置していく。

【問】 「仮設住宅建設」の現状について。

【答】 (土橋地域整備課長) 総戸数は2100戸目標、5月末943戸、6月初旬863戸。

【問】 今後の住環境整備について。

【答】 (平野総務課長) 岩手県から示された復興ビジョンでは4つのバタニに分類、バタニAは都市機能壊滅で「都市再生型」、回避型、分散型、抑制型で町民の意向を反映させながら高台移転や嵩上げを行う。度と津波で生命を奪われる

【問】 町義援金の状況について。

【答】 (瀧澤福祉課長) 5月25日現在665件、1億5500万円余り、100万円台28件、20

【問】 「初動体制の検証」が今後の町の防災と減災計画に活かされるべきと考えるが。

【答】 (平野総務課長)

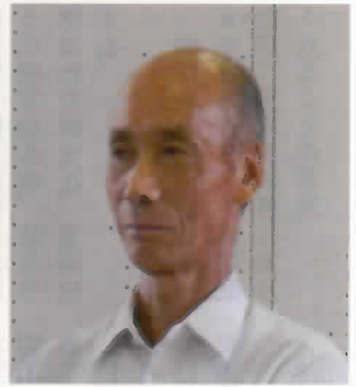
大災害において加藤町長をはじめ多くの町職員が命が奪われる結果を真摯に受け止め、復興計画と地域防災計画との整合性を図り、ハードとソフトの両面から地震、津波に対する防災対策における危機管理体制、防災体制強化を明文化、事業化する。

御社地の記念碑 昭和8年3月3日、大海嘯記念碑)を幼児教育に取り入れることの要望。

災害復旧について

【問】 「ガレキ撤去」について。

【答】 (土橋地域整備課長) 民有地のガレキ撤去は10月20日を目標に作業完了したい。最終集積場は沢山地区。



伊藤安男議員

行政の運営体制を強化し

大槌町の復興を

津波災害に関する国への要望事項について

先般平岡総務省副大臣の来町において、町から10項目が要望されましたが要望の見通しと問題点について次の通りお伺いします。

【問】 公共下水道の現状と今後計画の問題点と国からの特例措置の見通しについて。

【答】 (土橋地域整備課長)

今後の問題点については、現在実施している作業は全て応急復旧であり、今後の復興計画が定まらないと本復旧ができない点であります。

また、国からの特例措置については、今回の災害は激甚災害と同様の財政支援を受けられる見込みであり、8割補助となる見込みとなっております。

【問】 庁舎建設についての現在計画と特例措置の見通しについて。

【答】 (平野総務課長)

被災した役場庁舎の再建については、今後策定する復興計画に合わせ、住民の利便性や候補地の形状等を考慮し、検討してまいります。

庁舎建設に係る特例措置については、5月2日に公布された「東日本大震災に対処するため

の特別の財政援助及び助成に関する法律」(平成23年法律第40号)では、津波で役場が流されるなどした市町村の臨時庁舎整備は費用の3分の2を支援することとなっております。

しかしながら、庁舎建設に対する補助等財政援助については不透明であることから、機会をとらえ、国等に対して支援を要望していきます。

【問】 復興にむけた、過疎法適用計画と過疎法適用延長の見通しについて。

【答】 (澤館企画財政課長)

今回の災害を受けたことによる町の過疎計画変

え方と国 県の救済見通しについて。

【答】 (阿部産業振興課長)

漁家救済の町の救済見通し考え方については、現在、支援制度は個々に漁家を救済できる支援対策を検討しているところであり、

教育復興の方向性について

【問】 大槌町の「まちづくり」の基本理念は「まちづくりは人づくりから」であります。

津波災害で「まち」が流失しましたが、この基本理念を忘れてはならないと思えます。

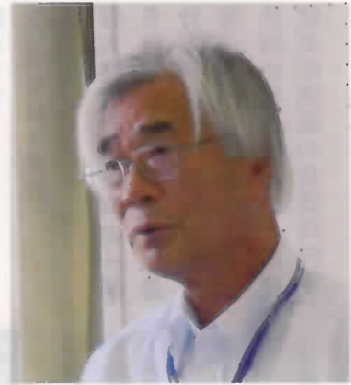
津波前において、大槌中学校の改築、赤浜、安渡小学校を北小へ統合する案が教育環境づくりの方向性でありました。しかし、今回の津波によって、大中、北小、大小の校舎が大きな災害を受け教育環境はひどい状況であ

ります。その状況を改善するために進めた仮設教室の建設も暗礁に乗り上げた状態にあります。こうした状態のため議論の足場が不安定であり、具体的な質問は無理と考えます。よって今回は教育の復興の方向性をどのように考えているのかをお伺いします。

【答】 (鎌田学務課長)

次の5点を教育復興の方向性として考えます。

- 第1は防災教育・復興教育の充実であります。
- 第2は、開かれた学校づくりであります。
- 第3には、防災拠点としての学校の再構築であります。
- 第4には、学校の配置であります。
- 第5には、生涯学習関連施設の充実を図り、復興計画と体となった学習活動を支援し、町民が主役となる町づくりを目指して参ります。



阿部佑吉議員

「震災復興構想・計画」策定の状況は

町長選挙後、早い機会に

進めていきたい。

【問】復興計画の基本方針で県は一つの原則を掲げた。

◆被災者の人間らしい「暮らし」「学び」「仕事」を確保し、人ひとりの幸福追求権を保障する。
◆犠牲者の故郷への思いを継承する。

一つの原則を貫くこと。
①被災者の生活基盤の回復を最大の目的に、必要なあらゆる支援を行うこと。

②「計画を作るのは住民合意で、実施は市町村と県国が連携して、財政の大半は国の責任で進める」ことを求めたい。

5月下旬頃策定とのことだが、進捗状況とその内容を示されたい。

【答】（平野総務課長）

方針は9日に開催の「大槌町震災計画準備委員会」で審議し、公表している。①多重化した防災機能を持つ災害に強いまちづくり、②被災した町民生活再建、③地域経済の振興、④町民による町民のためのまちづくり、の四つの柱により、「大槌町震災復興構想」及び「大槌町震災復興計画」を策定していきたい。「大槌町震災復興構想」は、町長選挙後早い機会に「大槌町震災復興計画」は、今年度を一つの区切りとして住民の合意形成に配慮しながら進めていきたい。

【問】復興計画に係る町

民説明会は、6月上旬に第1回の予定だが、仮設住宅入居後の住民との意見交換の場が必要ではないか。

【答】（土橋地域整備課長）

6月中の第1回町民説明会は、復興対策室が計画している。地域整備課が予定しているのは6月15日から、団地ごとに入居者説明会を開催予定。復興対策室の町民説明会は今後も行方。

【問】町長及び議会議員選挙を7、8月に実施の方向と示したが、現段階での見通し、進捗状況はどうか。

【答】（中村町民課長）

速やかに実施したいが、住民基本台帳ネットワークが未だ復旧していないこと、多くの町民の所在の把握ができない状況にあること、また、投票所・開票所が倒壊また避難所として使用されている現状などから、厳しい状況にあります。県選挙管理委員会等の支援、協力を得ながら、日でも早く選挙態勢が構築できるように努めたい。

【問】乳幼児医療費助成事業は、対象年齢は就学前までだが、約半数の県内市町村が対象年齢の拡大をはかる中、議会でも改善が求められ、今年10

【答】（中村町民課長）

3月の施政方針で対象年齢を拡大することを表明し、本年10月1日から実施予定としたが、予算には計上していない。対象者の拡大は、町長の福祉政策事項であり、町長選挙後、新たな町長のもとで、改めて検討したい。

※次の問題も質問しました。
◎「大槌町木造住宅新築・増改築助成事業」について
(答 阿部産業振興課長)



3月28日 城山公園から

第2回臨時議会

平成23年第2回臨時議会は、4月28日に開会されました。

◆承認◆

◎平成22年度大植町一般会計補正予算の専決処分
・歳入は特別地方交付税の増額と、財政調整基金からの繰入金、歳出は、災害救助にかかる仮設トイレ設置工事や仮設住宅にかかる工事等により、歳入歳出予算に2億3,781万8千円を追加し、予算総額を65億9,968万8千円とするものです。そのほか繰越明許費の追加2件、変更22件の補正です。
全員賛成・承認

後期高齢者支援金等課税額、介護給付金課税額をそれぞれ引き上げ、国民健康保険税を減額するものです。

◆賛成多数・承認

◎平成23年度大植町一般会計補正予算の専決処分
東日本大震災により、歳入は特別地方交付税、災害弔慰金、国庫負担金の増額、歳出は、災害弔慰金、小中学校仮設校舎賃借料により、歳入歳出予算に20億9,100万7千円を追加し、予算総額を75億8,100万7千円とするものです。
全員賛成・承認

◆議案◆

◎財産の取得
一般廃棄物収集運搬に使用する4tトラック 車2台を盛岡市の日野自動車株式会社から2583万円で購入するものです。
全員賛成・原案可決

第3回臨時議会

平成23年第3回臨時議会は、5月27日に開会されました。

◆承認◆

◎平成23年東北地方太平洋沖地震及び津波による廃棄物の処理に関する事務を岩手県に委託することについての専決処分
災害廃棄物を処理するために必要な事務を岩手県に委託するものです。
全員賛成・承認

ること、歳入は、国庫補助金、県補助金、町債、歳出は、がれき撤去委託料、沢山地区がれき集積場整備工事、緊急雇用創出事業により、歳入歳出予算に37億2,998万円を追加し、予算総額を113億1,098万7千円とするものです。そのほか地方債補正1件の補正です。
全員賛成・原案可決

◆議案◆

◎大植町災害弔慰金の支給に関する条例の一部を改正する条例
東日本大震災の被災者に適用される災害援護資金の特例措置を定め、負担の軽減を図るものです。
全員賛成・原案可決

第4回臨時議会

平成23年第4回臨時議会は、7月26日に開会されました。

◆議案◆

◎東日本大震災の被害者に対する町税の減免に関する条例の制定について
東日本大震災による被害者の軽減を図るため、被害の状況に応じた町税等の減免について定めるものです。
全員賛成・原案可決

について、大植浄化センター 災害応急復旧工事、桜木町雨水ポンプ場災害応急復旧工事、幹線管渠応急復旧工事を5600万円、東京都の日本下水道事業団と契約するものです。
全員賛成・原案可決

◆発議案◆

◎東日本大震災に係る復旧・復興対策特別委員会設置
復旧・復興に係る事業や取り組みを調査する目的で設置しました。
(賛成多数・原案可決)

◆議案◆

◎大植町介護保険条例の一部を改正する条例について
東日本大震災による被害を受けた者に係る介護保険料を免除しようとするものです。
全員賛成・原案可決

◆議案◆

◎平成23年度大植町公下水道根幹的施設の災害復旧事業に係る建設工事委託に関する協定の締結

故 阿部敏雄議員



大槌町議会議員として、志半ばで東日本大震災津波の犠牲になられたお人に、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。合掌

故 伊藤之夫議員



あの3月11日（金）

～議会会期中の大震災・大津波～
議会議員の体験と思ひ

平成23年第1回定例議会（3月議会）は3月4日（金）に開会され、会期は3月16日（水）までの予定でした。

3月11日は通常どおり午前10時から開会され、11時頃には、平成23年度当初予算（案）以外は議了となり、3月14日（月）からの当初予算（案）審議に向け予算特別委員会を設置し正副委員長を決め午前中に散会した。

そして、午後2時46分以降のことはここで記すまでもない。

同僚議員2人（別掲）が犠牲となり、多くの町民の方がそうであるようにご家族を亡くされたり、家を流した議員も少なくない。

「議会報編集特別委員会」では会期中に未曾有の大震災に遭遇した議員の体験・思いを特集として残したいと考え、原則500字以内ということで全議員にお願いした。その結果10人の議員からお寄せいただいた。以下、議席番号順に掲載する。

3月11日

東梅康悦

この度の東日本大震災、大津波により多くの町民の方々の生命、財産が瞬のうちに失われました。犠牲となられた方々と御遺族の皆様にお悔やみ申し上げますと共に、被災された皆様方にはお見舞い申し上げます。また日夜、支援や復興に尽力されている方々に対しまして心より敬意を表し感謝申し上げます。

津波というこの世の物とは思えないものが、私の妻、子供、大槌の人々を、大槌を飲み込んでいきました。

私は消防ポンプのマイクで大槌病院堤防にて「津波だー、逃げろー！」と川が溢れそうになるまで叫んでいましたが、助手席の「もう駄目だ」の声でハンドルを町方に切り走り出しました。

江岸寺では間に合わないと判断し蓮乗寺へ向かう途中、バイパスの堤防を遥かに超える津波が見えましたが、後ろには車が並び、戻ることも出来ず、津波に向かって車のアクセルを一杯に踏み込み、車は体当たりをしながら蓮乗寺の駐車場に運良く打ち上げられ助かりました。

それから先は生き延びた人々の苦痛の叫びです。地元の方と協力し、その後の火の海から避難の方々を誘導し助かる事が出来ました。

津波は容赦なく子供か

3月11日

小松則明

平成23年3月11日。私はこの悲惨日を 生忘れ

津波は容赦なく子供か



※3月11日（金）午後7時頃の写真（大槌病院屋上から大槌駅方向）

ら老人まで飲み込んでいきました。だからこそ、生き残った方々には強く生きて欲しいと思っております。

大槌は復旧から復興へと歩み出します。今こそ大槌町民が、つの復興方向に進まなければなりません。それが亡くなった方々の為にもなると思います。

復興の礎となる、私はその心に刻み前に進みます。

2011年3月11日(金)
14時46分大地震発生
15時21分 大津波襲来

里館裕子

その時、私は大槌町漁協の3階大ホールに足を踏み入れた直後だった。あまりにも大きな揺れに担当者は「地震だっ！！」と、緊迫した 声を発し出て行った。その言動は、落ち着きを失いかけていた私の心を現実に戻してしてくれた。机を支えに立っている事も出来ず、前後左右に振り回さ

れ続けた。壁をつたい段々、やっこの思いの外に出た。漁協前の道路は上下に大きく波打ち車に乗り込む寸前、目にした傍らの海面は穏やかに見えた。我が家は海から直線距離で3〜4百メートル、漁協からは7〜8百メートルの海拔13メートルの所にある。帰路の車窓からは、激しくうねる電線が目に入った。帰宅後も地震は続いていた。

3月11日

及川 伸

この度の大地震によって犠牲になられた方々や被災された方々に心からのお悔やみをお見舞いを申し上げます。私は大震災直後、あまりの衝撃を半分忘れて過ごしていたように思います。自らも被災し、家族の安否が不明の日が数日続いた事もあり一人の人間になっ

ていました。しかし間もなくふと我にかえり、毎日町の災害対策本部に通い、地域への物資や情報

3月11日

阿部義正

の確保、視察団への対応、ガレキの撤去の手伝い、各避難所を訪問等、ただただ無我夢中でした。それが火事の延焼ではもう成す術はないのだと、この時点では諦めた。と同時に『生かされた命、それだけでいい。』と強く思った。生かされた命と命を固い絆で繋ぎ、新生をおおつちの創造に尽力したい。

被災に想う

芳賀陽

ただ無我夢中でした。それが火事の延焼ではもう成す術はないのだと、この時点では諦めた。同時に『生かされた命、それだけでいい。』と強く思った。生かされた命と命を固い絆で繋ぎ、新生をおおつちの創造に尽力したい。

方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。復興には多額の費用と時間がかかりますが、すべての町民が心ひとつに前へ進まなければなりません。一人の百歩より、百人の一步の精神で、必ず町を一日でも早く復興させましょう。

この度の東日本大震災により加藤町長始め、数多くの町民が犠牲になられ、いまだ行方不明とならている皆様に心より哀悼の意を表します。また被災なされた皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

戦後最大という未曾有の被害の中で、懸命に復興復旧に取り組まれておられる自衛隊始め、県内外のボランティア関係各位の皆様には深く感謝申し上げます。

この度の大地震によりお亡くなりになられた

世界三大漁場の つに数えられ、海の恵みを受け漁業に従事している人々、関係する事業に従事している方々の生活を支えてきました。その反面、明治から今日迄、幾度となく津波の体験をし、その災害に多くの尊い人命と財産を失ってきました。宮城県沖を震源とする津波が、今後二十年間の内に九十九%の確率でやって来るだろう。と予測され、誰もが頭に描き訓練をし、自主防災を組織し、国も準備を進めている矢先の今度の震災まさかこんな早くこんな

時より乳幼児、高齢者、般の方々二百名を超える被災者、避難者の受け入れと対応に、昼夜問わず、ライフライン寸断の中、追われる日が続いていました。まだ自宅に戻れず生活している方もいます。日も早く家族の元で生活できる日を願いつつ、大槌町の復興を応援したいと思います。

「その時の状況と防災意識」

赤崎幾哉

3月11日、私は家内と外出から帰宅し駐車場で大地震に遇う。自主防災訓練同様、近所のお年寄りを第1避難所、江岸寺へ誘導し再び戻れると思ひ、長靴と携帯電話持参で避難。

高台の中央公民館駐車場にいる人々から「津波が大きいから早く登れ」との声。しかし「昭和8年はここまで来なかったから」という人々約30人がお寺の本堂へ。その後大津波来襲、

私は走って墓地の坂を登る。減災のために江岸寺へ残った方を救助手伝い。寒さの一晚城山体育館で過ごすも市街地は津波で全壊、城山周辺は火災で焼失、まるで「地獄絵図」のようだった。

火災の煙が危険と判断し城山林道に駐車する多くの車を誘導し二枚堂方面と大ヶ口方面への退路を確保。(役場職員の協力を得る)

11人の仲間を3度に車で「四季の郷」へ運ぶ。合計130人位避難。直ちに班編成し「食事、掃除、トイレ」当番表を作成。2週間滞在。「四季の郷」の皆様と自衛隊へ感謝、(1人の感染症者も出さず)

17日目に再度城山体育館へ27人で避難、その後3ヶ月間約330人と避難する。厳しい環境の中、集団生活の体験は大変貴重であった。「緊急災害対策本部」の中

「リアルはどうしたのか？初動での「危機管理意識の欠如」が問われる。「自分の生命は先ず自分で守る」ことの日常からの意識啓蒙が大切。御社地公園に建立する「昭和8年3月3日＝陸大海嘯記念碑」

一、地震があつたら津波を用心せよ
一、津波が来たら高い所へ逃げよ
一、危険地帯に住居をす
るな

「防災教育の必要性あり！」

目の前で街が消滅！津波の脅威を後世に

阿部佑吉

3月11日午前、議会が終わり帰宅。午後自宅で資料整理中、大きな地震の揺れ。棚の物が落下床に散らばる。やがて大津波警報。着のみ着のまま携帯電話・ラジオを携え、近所の高齢者数人に声をかけ共に約150m西の県立大槌病院の非常階段を昇り屋上に避難。大槌

川左岸堤道路には避難途中とみられる車が走行していたが、やがて動きが止まり渋滞となる。まもなく河口方面から、黒い巨大な滝のような津波の襲来。眼前の街はまたたく間に黒い海と化した。

流失家屋の屋根が病院にとどまり、その上で助けを求めろ方が病院関係者の必死の努力で救出された。左岸道の車の渋滞群は波に流され消えた。暮れ方、ボンボン音がして城山下の家屋に火が付いた。蓮乗寺の延焼は映画で見る落城の光景を連想させる。何度も寄せては引く大槌川の津波の濁流は燃え盛る瓦礫を運び続けた。末広町、本町、上町方面は翌朝まで爆音を響かせながら、炎が夜空を焦がした。自分の目の前で起きたこれらの事が「とても恐ろしい夢を見た。目覚めたら何事も無かった」一であればよかったが、見たこと総てが夢ではなく、紛れもない事実であった。多くの

命が奪われ、街は消滅した。だが前に進むしかない、ともに！

東日本大震災で被災に
あつた想い

副議長 野崎重太

3月11日想い出したくもない東日本大震災。

宮城、岩手で起きるであろう地震津波は30年以上90%、10年以内70%の確率で起こるといふことは、ある程度の覚悟はしているながらも、この度の大震災は想定以上と言えども、何でこんな事があつて良いのか、自然の恐ろしさをこれほど感じたことはありません。家族は無事か、近所の人は、知り合いは、生きて再会し無事を確かめあい皆それぞれにドラマがあり人間の生命力のたくましさに敬服するものです。

仮設住宅に向けての段取りなど先立つことを考えると、テレビドラマを見て感動あるいは悲しみ、涙した自分が涙の一つも出ないことに、目はどうしたのか自分でもわかりませんでした。

月日が過ぎ、お寺で死者、行方不明者の合同葬儀がありました。その時弟、友人、同級生、知人等名前が読み上げられた時、初めて大粒の涙が流れ、拭くことも忘れた。ただ泣いた初めてで最後の涙でした。泣いて世の中が変わるわけでもなし、これからの大槌の復興に向けた取り組み、百年、千年後に来るかもしれない大災害に立ち向かっているかなければと思ひます。

どんな災害がこようと一人の犠牲者も出さないような町づくりをしななければならぬ。大槌町の死者、行方不明者合わせ、およそ1500人、合掌しお悔やみ申し上げるとともに、復興に向けてガンバロ。

東日本大震災にあたって

議長 阿部六平

去る3月11日に発生した東日本大震災の津波により、大槌町は、4000世帯を超える家屋が壊滅し、またおよそ1500人の町民の方々が犠牲となり、未曾有の大災害となりました。

犠牲になられた町民の方々には、衷心よりお悔やみ申し上げます。

町議会におきましても、伊藤之夫議員と阿部敏雄

議員が亡くなり、残念な

思いと、悔しい気持ちで

いっぱいあります。ご冥福をお祈りいたします。

犠牲になられた方々に

報いるためにも残された

私たちは、日も早く大槌町の復旧・復興を果たし、かつての町のにぎわいを取り戻すことが使命だと思っております。

町議会といたしましては、この大震災という逆境をばねにして、大槌町民の英知を結集し、町当

局と連携し、災害に強い

まちづくり、被災した町

民生活の再建、地域経済

の振興等が実現できるよ

う全力を傾注してまい

る所存であります。

震災当初から、がれきの町と化した厳しい環境の中で、大槌町民の救済や応援に携わってくれました自衛隊、警察、消防、ボランティアの皆様方へ、この紙面をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

定例会・臨時会議員出欠表

議席番号	議員氏名	第2回定例会 (6/10～6/15)		第2回臨時会 (4/28)		第3回臨時会 (5/27)		第4回臨時会 (7/26)	
		出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席
1	東梅康悦	3	0	1	0	1	0	1	0
2	小松則明	3	0	1	0	1	0	1	0
3	里館裕子	3	0	1	0	1	0	1	0
5	欠員								
6	欠員								
7	及川 伸	3	0	1	0	1	0	1	0
8	阿部義正	3	0	1	0	1	0	1	0
9	阿部勝浩	3	0	1	0	1	0	1	0
10	芳賀陽一	3	0	1	0	1	0	1	0
11	赤崎幾哉	3	0	1	0	1	0	1	0
12	後藤高明	3	0	1	0	1	0	1	0
13	伊藤安男	3	0	1	0	1	0	1	0
14	岩崎松生	3	0	1	0	0	1	0	1
15	岡本大作	3	0	1	0	1	0	1	0
16	欠員								
17	阿部佑吉	3	0	1	0	1	0	1	0
18	野崎重太	3	0	1	0	1	0	1	0
19	阿部六平	3	0	1	0	1	0	1	0

編集後記

◎マグーチュド90、震度6弱の大地震により、大津波が来襲、岩手県、宮城県、福島県沿岸が人命と家屋など壊滅的な被害を受けた。

◎大槌町は市街地を中心にほぼ全滅に近い大きな打撃を受け、更に火事も加わり死者、行方不明者計約1400余名、避難者町内外約6000名。大幅な人口減が心配される。

◎近親者などと多くの瞬間の死別が現実となり「生命でんご」を目の当たりにした方々が余りに多く、加藤宏暉町長はじめ7人の課長そして25名の職員と議会議員2名がお亡くなりになった。謹んでお悔やみ申し上げます。

◎自衛隊や警察署員、消防署、そして消防団員の献身的な作業によりガレキや遺体の収容が行われている。「東日本大震災」の名称のもと国や県は早急な復旧への道筋を描いて、各県市町村に指示し、それに基づく大槌らしい復旧が、日も早く実現してほしいもの。

◎町では、最高責任者の町長選挙と任期満了に伴う町議会議員選挙が同時に行われるという。8月28日

◎新しい体制で過去の「しがらみ」から脱却した「新しい発想」で将来の「まちづくり」を希望する。

◎阿部佑吉委員長には長年の議員生活ご苦労様でした。

赤崎

◆レポート作成時、沢山の資料からのマトメも、乏しい資料からの編集も兼ねたことではない。今回の苦労は後者であった。3月11日の大震災はほとんどの議案・議事録を流し失させた。議案書を自宅に置き被災しない議員、城山の教育委員会の協力で何とか形は整えた。

◆6月議会終了後、いざれ今任期中には3月議会分も含めて発行せねばと

思いはあったが、選挙日程が定まるまで脇においた。

◆7月11日の編集委員会で、3月議会報 123号と6月議会報 124号は合併号として発行する。また、特別企画として津波災害の惨状・怖さを在職議員の想いとして後世に残したいという趣旨で原稿を全議員にお願いした。

◆厳しい状況下での編集であり、不備は多々あるが、その理め合わせは改選後の議会に委ねたい。また、発行にあたり汗をかいて頂いた関係者の皆様方に感謝を申し上げ、今期編集委員会を閉じることにしたい。

(阿部)

議会報編集特別委員会

委員長 阿部 佑吉

副委員長 東梅 康悦

委員 里館 裕子

委員 及川 伸

委員 赤崎 幾哉